

広島スチールセンター



長谷川社長

安全・品質管理体制を強化

防護柵 表面検査装置 ラインに水平展開

【東広島】伊藤忠丸紅鉄鋼グループの自動車向けを主力とするコイルセンター、広島スチールセンター（本社）広島県東広島市、長谷川豊蔵社長）は安全・品質管理体制を強化する。昨年初めに2号スリッターラインに導入した新安全防護柵を1号スリッターラインにも設置。また1号レベラーラインに取り付けた鋼板表面自動検査装置を2号スリッターにも導入する。いずれも4月下旬から5月初旬のゴールデンウィーク期間中に実施する。

1号スリッターに導入する新安全防護柵は伊藤忠丸紅鉄鋼・技術支援室の全面サポートのもと、2号スリッターに導入したタイプを、光電管センサーのライトカーテンを多用

するなどさらに進化させ、安全対策を強化したものとなる。自動停止機能のあるライトカーテンやエリアセンサーを随所に備えた新安全防護柵をスリッター2基に配備することに

より、伊藤忠丸紅鉄鋼グループコイルセンターの安全対策モデル工場と位置付ける。2号スリッターに取り付ける予定の鋼板表面自動検査装置は1号レベラー同様ヒューテ

ックオリジン製で、レベラーと違いラインの上側だけでなく下側にもカメラを装備、LED灯光器による反射で鋼板表面キズなどをカメラがとらえ自動検知する。1号レベラーで

営業生産上の問題点がほぼ解消されたことから導入に踏み切る。品質管理体制を強化するとともに作業負担の軽減を図る。

高水準の操業が続いている。今期（2016年3月期）の鋼板総加工量は、前期比約2000ト増の18万90000トレベルと過去最高になる見通しで、3期連続の増収増益も見えてきた。品質精度上、加工が難しい自動車向けステンレス鋼板加工体制が整ってきた上、配電盤や農機具、建材向けなど非自動車分野も徐々に伸びている。工場ラインはシャリリソクの1直プラス残業以外はすべて2直フル稼働で、管理指導者もラインに入るなど人員がタイトな状況。このため最近2人を増員し1号レベラーと2号スリッターに配置、今週にはさらに1人を受け入れ小割スリッターに配する方針だ。

明後日、伊藤忠丸紅鉄鋼グループの広島スチールセンターで、安全・品質管理体制強化に関する記者会見が予定されている。